



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第 117 号(2015 年 12 月 25 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

=====  
年末を迎えました。みなさま良いお年をお迎えください。  
=====

○ 台湾・韓国の大学事情の一端  
=====

法学部長 小山正善

夏が終わろうとする9月初旬、台湾の高雄大学、中正大学、政治大学、淡江大学の4大学を（吉岡副学部長、林グローバル・パートナーズ職員同行）、秋が終わろうとしている11月中下旬に韓国ソウル市にある成均館大学、漢陽大学、延世大学、高麗大学の4大学（小塚准教授、羅法務研究科助教同行）を訪問しました。この間、11月中旬に高雄大学の簡玉聰先生、政治大学の陳洸岳先生をお招きし、検討会を持ちました。これらは、来年4月からの60分授業（現行は45分を基本とし、2コマ続きの90分授業です）・クォーター制（4学期制）の実施に向けて、そのための特別の経費（カリキュラム開発経費）を使用して行ったものです。まず最初に、60分授業・クォーター制に関連して少し記してみよう。

台湾、韓国とも授業時間は50分、間に休憩10分を基本とします。その上で、2または3コマ連続（100分、150分授業）にするとか、休憩の取り方については、教員の判断に委ねています（3コマ連続は大学院授業に多い）。また、台湾では、50分授業18回を1単位とし、2コマ連続授業が多いことから、学部の場合は通常2単位科目となります。韓国では、3単位科目が少なくなく、その場合1コマと2コマ連続授業（週に50分と100分授業の2回）か3コマ連続（75分授業を2回）としています。

このように50分授業を基本とする理由については、受講生の集中力の持続を考慮した結果である、ということのようです。どの大学でも共通して指摘された理由でした。なお、授業開始は、8時または8時過ぎが多く、昼休憩のない大学もあります。

一方、学期は前後期のセメスター制（2学期制）です。9月中に入学し、翌年の2月中に卒業するというパターンようです。実質的に10月入学と同様であることからか、クォーター制についてはほとんど理解を得ることができませんでした。韓国のある大学では、学年配当がなく、毎年ほとんど同じ科目を提供している関係上、留学のための特別の配慮は必要ないとのことでした。

紙幅の都合もあり、詳細については触れることができないのですが、上記以外でも多くの情報を得ることができました。

上で韓国の大学について記したことは、実は、ロースクール（法科大学院）に関してのことです。韓国では、2013年にロースクール制度ができ、それを設置した大学（25大学、定員計2,000人）は2017年に法学部を廃止することになっています。これに対して、台湾は、ロースクール制度採用以前の日本と同じで制度であり、学部・大学院（2つを包摂して法学院という）出身者が司法試験を受けることとなります（台湾では司法試験受験者の1割を合格者数としています）。

台湾の大学にはこれまでも訪問したことがあったためか、強い印象を受けるということはなかったのですが、韓国の大学には驚かされることが少なくありませんでした。わたくしたちが訪れた各大学は、いうまでもなく、ソウル市所在の一流私大ですが、建物設備、学習研究環境、書籍資料等々、どれをとっても本学とは比較にならない素晴らしいものでした。むろん、学部で年間100万円、ロースクールで200万円の学費は、かなり高いといわざるを得ないのですが、それに見合うほどのものがあると感じたのも事実です。また、大学と周辺の街との関係もなかなかのものでした。

韓国の大学事情は、ソウル一極集中であり、東京一極集中をはるかに凌ぐものがあります。したがって、本学のように地方に所在する大学がどのようになっているのか、興味深い点ですが、いつかこの点を確認したいと思う訪問でもありました。

みなさま、よいお年をお迎えください。  
=====